

高等学校 地理歴史科

1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
 - …それらを生きて働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
- ・「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
 - …単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、その解決に向けて構想したりする学習の一層の充実
- ・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

目標の改善

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の改善・充実

- ・共通必修科目としての「地理総合」と「歴史総合」を設置し、選択必修科目として「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」を設置。
- ・日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について、時間的・空間的などの多様な視点から考察するグローバル化への対応。
- ・持続可能な社会の形成、情報化等による産業構造の変化。
- ・主権者教育において重要な役割を担う教科として、選挙権年齢の 18 歳への引き下げに伴い財政や税、社会保障、雇用、労働や金融といった課題への対応。
- ・少子高齢化等による地域社会の変化などを踏まえた教育内容の見直し 等。

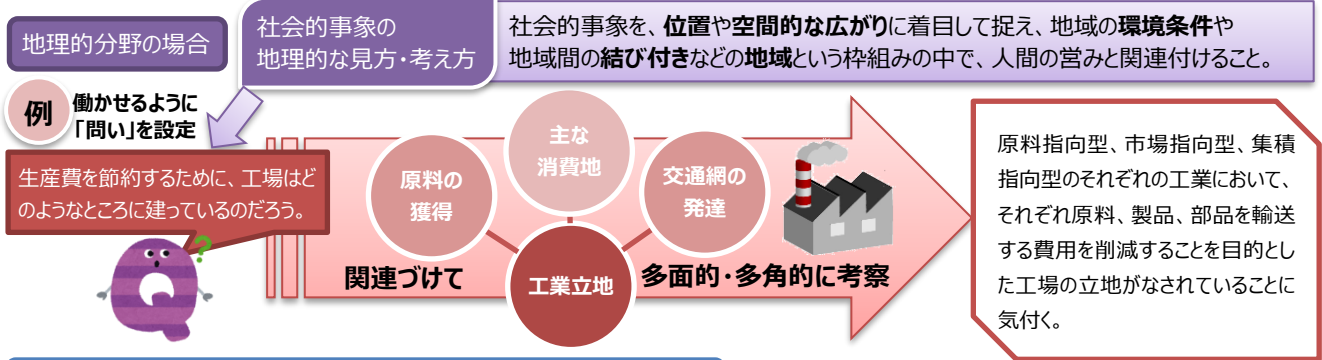
内容の取扱い等

- ・地理歴史科においては、大項目を A、B、C…の順で示し、それを構成する中項目を(1)、(2)、(3)…の順で示し、さらに必要に応じてそれを細分化した小項目を設定した。
- ・「地理総合」と「歴史総合」をいずれも全ての生徒に履修させる。
- ・「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できる。

2 高等学校地理歴史科における授業づくりのポイント

ポイント①：「社会的な見方・考え方」を意識した「問い」の設定

資質・能力の育成をめざした授業づくりをするためには、「社会的な見方・考え方」を働かせるようにどのような「問い」を設定するかを考えることが大切です。単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させ、思考・判断・表現を経て深い理解に迫ることが求められます。



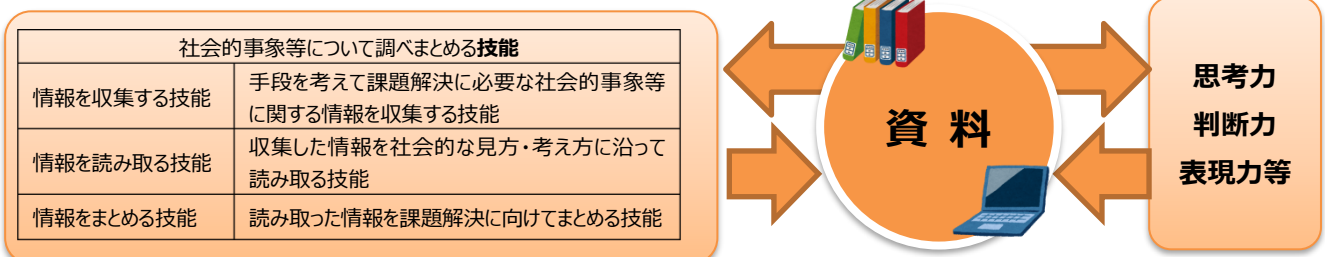
ポイント②：課題を追究したり解決したりする活動の充実

資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められます。主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、単元の中に生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見出したりする学習活動を位置づけることが大切です。

	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等を知る 気付きや疑問を出し合う 課題意識を醸成する 学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説を立てる 調査方法、追究方法を吟味する 学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> 学校外での観察や調査などを通して調べる 様々な種類の資料を活用して調べる 他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考察する 話し合う（討論等） 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> 考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を振り返って結論をまとめる 結論について他の生徒と話し合う 学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る 学習成果を学校外の他者に伝える 新たな問い（課題）を見出したり追究したりする

ポイント③：「社会的な見方・考え方」を働かせる資料の工夫

諸資料等から様々な情報を効果的に調べまとめることによって「技能」を身に付けるようにするだけでなく、諸資料等を基にして多面的・多角的に考察したり、考察、構想（選択・判断）したことについて資料等を適切に用いて論理的に示したりすることによって、「思考力、判断力、表現力等」も育成することを意識することが大切です。その際、新聞や公的機関が発行する資料等や博物館や資料館、図書館などの公共施設も積極的に活用しましょう。



3 高等学校地理歴史科実践事例

単元（題材）の流れ

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
第1時	(1)自然環境と生活のかかわり (2)変化に富んだ気候 (3)局地的な気候	
第2時	(4)気候から見た東西日本 (5)日本の地形の特徴 (6)都市・産業の立地と地形	
第3時	(7)くり返す自然災害 (8)火山災害に備える (9)水害に備える	
第4時	(10)伝統的な水害対策 (11)地震・津波に備える (12)自分たちで災害に備える	
本時 (第5時) ※ まとめ	○4つの避難経路のうち、最もよいと思う経路とその理由を考えよう。 ・与えられた条件のもとで最適な避難行動をとることが大切である点を改めて確認させる。 ・日頃から防災や避難について考える態度を養う。	活用 問い 資料 考察 表現

深い学びを実現するためのポイント

社会科固有の見方・考え方を働かせる

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向け構想したりする際の視点や方法です。地理歴史科では「地理領域科目」「歴史領域科目」の特徴に応じて整理されました。

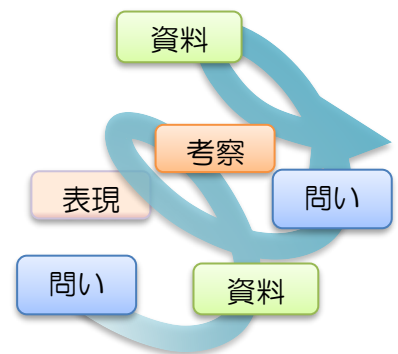
地理歴史科における「社会科における見方・考え方」

地理領域科目	位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける
歴史領域科目	時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

生徒の思考・判断・表現が湧き起こる問いを設定する

生徒のアクティブな思考・判断・表現を促すには「適切な問い」が必要です。

この実践事例では、毎時間「小さな適切な問い」を設定し、一人で考え文章としてまとめる、ペアワークでまとめてみるなど、小さなステップを踏みながら、「与えられた条件のもとで最もよいと思う避難経路とその理由を考える」という単元を貫く大きな問いに迫っていきます。



アウトプット活動により生きた知識・技能を定着させる

教員の一方的な授業では、生徒はたった一つの見方・考え方しか身に付けることは出来ません。

しかし、この授業では、個人で、ペアで、グループで話し合い、考える機会が設けられています。

生徒は互いの知識や意見、考え方に触れ、自分の考えと比較したり繋げたり、また新しい自分の考えを言葉や文章でまとめることで、社会的事象は様々な見方や意味があることを学び、同時に生きた知識・技能を身に付けることができます。



本時の指導計画





- ◆科目・学年 地理総合・1年
- ◆単元名(題材名) 自然環境と防災
- ◆学習指導要領との関連 内容C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災
- ◆単元(題材)の目標

- (1) 私たちの生活に影響を与えている気候、局地的な気候、地形について理解する。
- (2) 地形に応じた暮らしをしてきた日本の村落や都市の立地を理解し、近世以降の地形改変による生活環境の変化が、人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。
- (3) 自然災害に備えるためには、減災に向けた地域防災力を高めるなど、普段からの心構えが重要であることを理解する。

◆本時の目標

- ・複数の情報を組み合わせて地域の災害危険性を深く考察することができる。[思]
- ・地形図から津波災害の避難経路としての問題点を読み取りまとめる。[知] [思]

◆主な学習の流れ (5時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項
1 本時の学習内容を確認する	・スクリーンに4つの避難経路図を示し確認する。
4つの避難経路のうち、最もよいと思う経路とその理由を考えよう。	
2 ワーク ペア ○グループでワークシートの2つの課題（古地図と地形図の比較・碑文の解読）を分担する。 ○それぞれ分担した課題にペアで取り組む。	・既習事項等を参考にしながらペアで取り組む時間を十分に確保する。 
3 エキスパート会議 ○グループを越えて、同じ課題を担当する生徒が集まり、意見を共有し、課題に取り組む。	・資料や他の生徒の意見を参考に理解を深めることができるよう、学びあいの時間を十分に確保する。 
4 グループワーク グループ ○元のグループで集まり、2つの課題の結果を共有する。 ○2つの課題の結果をふまえ、4つの避難経路の良い点、悪い点を考える。 ○4つの避難経路の中で最もよいと考える避難経路を選ぶ。	・課題の結果を共有するときに、わからないことや疑問に思ったことを質問するようにする。  
5 発表 ○それぞれグループの考えを発表し、全体で共有する。	・他者の発表を聞く際、問題点がないかを考えながら聞くようにする。
6 本時のまとめと振り返り	・与えられた条件のもとで最適な避難行動をとることが大切である点を改めて確認させる。 ・そのために、日頃から防災や避難についてよく考えておかなければならないことも伝える。